

令和4年度

教育委員会活動の点検・評価報告書

令和4年12月

長島町教育委員会

目 次

I はじめに

- 1 制度の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 1
- 2 点検・評価の対象・・・・・・・・・・・・・・・・P 2
- 3 実施フロー・・・・・・・・・・・・・・・・P 2
- 4 外部評価委員会（学識経験者の知見の活用）・・・・・・・・P 2

II 点検・評価結果

- 1 外部評価委員会による意見【様式第1】・・・・・・・・P 3
- 2 教育委員による意見【様式第2】・・・・・・・・P 4
- 3 担当課による評価【様式第3】・・・・・・・・P 5
- 4 外部評価委員会及び教育委員の評価【様式第4】・・・・・・・・P 6
- 5 担当課による個別事業点検・評価シート【様式第5】・・・・・・・・P 7

III 参考資料

- 1 教育委員会の活動状況・・・・・・・・P 27
 - (1) 委員選任状況
 - (2) 会議の開催状況
 - (3) 審議状況
 - (4) 学校訪問等
- 2 実施要綱等
 - ・ 長島町教育委員会外部評価委員会設置規程・・・・・・・・P 28

I はじめに

1 制度の趣旨

長島町教育委員会は、町政振興の基本理念である「夢と活力があり、住民一人ひとりを大切にする福祉のまちづくり」を踏まえ、「ふるさとを愛し、心豊かでたくましい人づくり」を基本目標として、心身ともに健康で、主体性、創造性、協調性を備え、社会に寄与するたくましい町民の育成を目指して、活力ある教育・文化の振興を図っています

その推進にあたっては、学校・家庭・地域・行政がそれぞれの役割を果たし、より一層の連携を図りながら、特色ある開かれた学校の創造を進めつつ、あいさつ運動や豊かな体験活動等を通して、知・徳・体の調和がとれ、主体的に考え行動する力を備える児童生徒の育成に努めています。特に学校教育においては、「協働・共育で自立を促す長島の教育」を基本方針とし、夢を抱き・決してあきらめず・最後までやりとげる心豊かでたくましく「生きぬく力」を身に付けた児童生徒の育成をめざしています。

併せて、町民が一体となった生涯学習・スポーツ・文化の創造をめざし、生涯を通じて学習の機会を得て、潤いのある充実した人生を送ることができるよう生涯学習の推進に努めています。

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され（平成20年4月1日施行）、教育委員会は、毎年、その教育行政事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することが規定され、点検・評価に当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされています。

このようなことから、教育委員会では、法の趣旨に則り、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民の皆様へ説明責任を果たすため、外部評価委員会を設置し、教育委員会所管の事務事業の点検・評価を実施しています。

○ 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成しこれを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価の対象

点検・評価の対象は、教育委員会が所管する事務事業について、教育委員会事務局で協議し、教育委員会において選定しました。

令和4年度は、次の20項目の事務事業を点検・評価項目に設定しました。

① 学校施設整備事業	⑪ 英語指導助手設置事業
② 教職員住宅整備事業	⑫ ふるさと教育推進事業
③ 長島町立小・中学校統合再編推進事業	⑬ 長島の子表彰事業
④ 小・中学校就学援助事業	⑭ 体力向上推進事業
⑤ 長島町ふり奨学金償還事業	⑮ 生涯学習推進事業
⑥ 離島高校生修学助成事業	⑯ 図書館事業
⑦ 給食センター運営事業	⑰ 文化財保護事業
⑧ 学力向上推進事業	⑱ 芸術文化振興事業
⑨ 生徒指導推進事業	⑲ 社会体育振興事業
⑩ 特別支援教育推進事業	⑳ 体育施設管理事業

3 実施フロー

一 次 評 価	担当課による評価（6月）
↓	
学識経験者の知見の活用	外部評価委員会を設置し、意見を聴取（8月）
↓	
二 次 評 価	教育委員による評価（9月）
↓	
議会へ報告書の提出・公表	（12月）

4 外部評価委員会（学識経験者の知見の活用）

点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する外部の方々の意見を聞く「外部評価委員会」を設置し、委員から様々な意見、提言等をいただきました。

委員は次のとおりです。

氏 名	適 用
下 塩 見 浩	第3条第2項による
竹 本 浩 憲	第3条第2項による
大 迫 香 寿 枝	第3条第2項による
上 久 美 子	第3条第2項による
関 佳 代 美	第3条第2項による

Ⅱ 点検・評価結果

【様式第1】

長島町教育委員会外部評価委員会による意見聴取報告シート

1 令和3年度実施分教育委員会主要事業点検・評価

(1) 教育総務課所管分

- 中学校の統合再編の進捗状況についての質問に対し、議会での1校案の否決とその後2校案の推進を行ったが川床、平尾の地域や保護者から反対意見が多かったため現状は進んでいない。また、日置市及び薩摩川内市の義務教育学校へ視察研修を行ったが、義務教育学校は本町にはまだ早いという声があったと回答。
- 就学援助の申請者が増えていることの捉え方、今後の方針はという質問に対し、長島町は子育て世代への補償が手厚い中での申請者増加は好ましくない、本当に支援が必要な子どもたちに援助できるよう審査を強化したいと回答。
- 評価項目の評価についてこのままでよい。(委員多数)

(2) 学校教育課所管分

- 不登校生徒について原因把握をしているのかという質問に対し、夏休み明けのタイミングで学校に来られない生徒が多く、多様な要因はあるがコミュニケーション不足が一番大きいと思う。また、対策については夏休み中に気になる児童生徒には電話等で連絡し、学校に登校しやすい環境づくりに努めていると回答。
- スクールカウンセラー、ソーシャルワーカーの違いや活動内容、対応頻度についての質問に対し、子どもや保護者の心のケアをしているのがスクールカウンセラー、家庭と関係機関をつなぐ役割をしているのがソーシャルワーカーであり、本町では役職にとらわれずどちらの対応もしている。また頻度は希望を取っているが、スクールカウンセラーは県予算のため難しいところもある。民生委員、福祉事務所と連携をとって対応していきたいと回答。
- 体力向上推進事業について、部活動の行き過ぎたケガ等の評価もすべきではないかという意見に対し、部活動については休みの日や時間等の規定を作っているためその範囲で行っている。評価については参考にしたいと回答。
- 評価項目の評価についてこのままでよい。(委員多数)

(3) 社会教育課所管分

- 評価項目の評価についてこのままでよい。(委員多数)

2 令和3年度教育委員会委員の活動状況の点検・評価

- 質疑なし。

【様式第2】

長島町教育委員会による意見聴取報告シート

1 令和3年度実施分教育委員会主要事業点検・評価

(1) 教育総務課所管分

- 質問等なし
- 評価の項目について外部評価委員会評価のとおり。異議なし。

(2) 学校教育課所管分

- 質問等なし
- 評価の項目について外部評価委員会評価のとおり。異議なし。

(3) 社会教育課所管分

- 評価についてC評価が多いのはなぜかという質問に対し、特にC評価が多い芸術文化振興事業については、新型コロナウイルス感染症拡大により、文化ホールでのイベントが実施できなかったことで、照明や音響を操作する職員の経験不足が懸念されているためと回答。
- 評価の項目について外部評価委員会評価のとおり。異議なし。

【様式第3】

担当課による総括表

担当課	シート 番号	事務事業名	令和3年度末状況				担当課評価	
			有効性	必要性	効率性	公平性	達成度	方向性
教育総務課	1	学校施設整備事業	A	A	B	B	B	A
	2	教職員住宅整備事業	A	A	B	B	B	A
	3	長島町立小・中学校統合再編推進事業	A	A	B	B	C	B
	4	小・中学校就学援助事業	A	A	A	B	A	A
	5	長島町ぶり奨学金償還事業	A	A	A	A	A	A
	6	離島高校生修学助成事業	A	A	A	B	A	A
	7	給食センター運営事業	A	A	A	A	A	A
学校教育課	1	学力向上推進事業	A	A	A	A	B	A
	2	生徒指導推進事業	A	A	A	B	B	A
	3	特別支援教育推進事業	A	A	A	B	A	A
	4	英語指導助手設置事業	A	A	B	A	A	B
	5	ふるさと教育推進事業	A	A	A	A	A	A
	6	長島の子表彰事業	A	A	A	A	A	A
	7	体力向上推進事業	A	A	A	B	B	A
社会教育課	1	生涯学習推進事業	A	A	B	B	C	B
	2	図書館事業	A	A	C	C	C	B
	3	文化財保護事業	A	A	C	B	B	A
	4	芸術文化振興事業	A	A	C	C	C	B
	5	社会体育振興事業	A	A	A	A	C	A
	6	体育施設管理事業	A	A	B	A	C	A

事業評価基準

有効性	A	有効性は大である
	B	有効性は普通である
	C	有効性はやや低い
必要性	A	必要性は大である
	B	必要性は普通である
	C	必要性はやや低い
効率性	A	効率性は大である
	B	効率性は普通である
	C	効率性はやや低い
公平性	A	公平性は大である
	B	公平性は普通である
	C	公平性はやや低い

達成度	A	目標値に対して実績値が上回っている
	B	目標値に対して実績値が若干下回っている
	C	目標値に対して実績値がかなり下回っている
方向性	A	方向性が良く、このまま継続する
	B	方向性は良いが、事業手段を改善する必要がある
	C	事業の統廃合を含めた見直しが必要である

【様式第4】

外部評価委員及び教育委員会評価シート

担当課	シート 番号	事務事業名	外部評価		教育委員会評価	
			達成度	方向性	達成度	方向性
教育 総務課	1	学校施設整備事業	B	A	B	A
	2	教職員住宅整備事業	B	A	B	A
	3	長島町立小・中学校統合再編推進事業	C	B	C	B
	4	小・中学校就学援助事業	A	A	A	A
	5	長島町ぶり奨学金償還事業	A	A	A	A
	6	離島高校生修学助成事業	A	A	A	A
	7	給食センター運営事業	A	A	A	A
学校 教育課	1	学力向上推進事業	B	A	B	A
	2	生徒指導推進事業	B	A	B	A
	3	特別支援教育推進事業	A	A	A	A
	4	英語指導助手設置事業	A	B	A	B
	5	ふるさと教育推進事業	A	A	A	A
	6	長島の子表彰事業	A	A	A	A
	7	体力向上推進事業	B	A	B	A
社会 教育課	1	生涯学習推進事業	C	B	C	B
	2	図書館事業	C	B	C	B
	3	文化財保護事業	B	A	B	A
	4	芸術文化振興事業	C	B	C	B
	5	社会体育振興事業	C	A	C	A
	6	体育施設管理事業	C	A	C	A

事業評価基準

達成度	A	目標値に対して実績値が上回っている
	B	目標値に対して実績値が若干下回っている
	C	目標値に対して実績値がかなり下回っている
方向性	A	方向性が良く、このまま継続する
	B	方向性は良いが、事業手段を改善する必要がある
	C	事業の統廃合を含めた見直しが必要である

令和3年度個別事務事業点検・評価シート

シート番号 1

事業名	学校施設整備事業		担当課	教育総務課	
1 事業の目的、概要等	【事業の目的】 小学校7校・中学校5校及び2幼稚園の施設管理，施設整備，環境整備の推進を図ることを目的とする。				
	【事業の概要】 学校及び幼稚園施設については，児童生徒・園児の教育的環境・安全性を考慮し年次的に整備する。				
2 主な活動・成果指標	指標名		令和元年度	令和2年度	令和3年度
	①地方創生臨時交付金事業 鷹小・城小トイレ洋式化工事 ②獅子島中学校フェンス改修工事 ③川床小学校プール固定テント張替修繕工事 ④鷹巣小学校体育館倉庫雨漏り補修工事 ⑤蔵之元小学校バックネット取替工事 ⑥獅子島小学校スクールバス車庫修繕 ⑦長島中学校外部トイレ白蟻被害箇所補修 ⑧その他修繕 56件		【目標値】 — 【実績値】 110件 〈達成率〉 — 【決算額】 622,363千円 うち繰越289,202千円	【目標値】 — 【実績値】 103件 〈達成率〉 — 【決算額】 130,569千円	【目標値】 — 【実績値】 63件 〈達成率〉 — 【決算額】 20,207千円
3 令和3年度末における事業の成果・達成状況	有効性	A	児童生徒・園児の教育環境を改善する。		
	必要性	A	教育環境の安全性を維持する必要がある。		
	効率性	B	財政的な課題で年次的な整備になる。		
	公平性	B	緊急性の高い施設から優先的に実施する。		
4 課題等	本町の学校施設は，獅子島小学校以外の全ての学校施設が築年数20年以上を経過しており，老朽化の進行は避けられない状況となっている。そのような中，空調施設の整備，情報通信ネットワーク整備等教育環境向上のための施策を展開している。今後は，大規模な工事や修繕，建替えが必要となるが，学校統合・再編を見据えながらの実施となるため，大規模な工事等は十分な検討が必要となる。				
5 評価	達成度	方向性	評価理由	緊急性の高い施設から年次的に整備する計画であるが，小・中学校の統合・再編との関連から財政的な支援が厳しい状況である。	
	B	A			
6 令和4年度予算額	14,699千円		令和4年度の取組み	・平尾中学校音楽室壁補修 ・鷹巣中学校体育倉庫屋根補修 ・平尾小学校管理棟雨漏り補修工事 ほか	

令和3年度個別事務事業点検・評価シート

シート番号 2

事業名	教職員住宅整備事業	担当課	教育総務課	
1 事業の目的、概要等	【事業の目的】 教職員住宅の維持補修及び居住環境の改善を図ることを目的とする。			
	【事業の概要】 教職員住宅の維持管理のため整備を図り、年次的な居住環境の改善を推進する。 令和3年度入居者（令和4年3月31日時点） 59戸中53戸入居 空き（鷹巣1戸、川床1戸、蔵之元1戸、伊唐1戸、獅子島2戸） シロアリ被害のあった片側教職員住宅を解体した。			
2 主な活動・成果指標	指標名	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	①片側教職員住宅解体工事	【目標値】 —	【目標値】 —	【目標値】 —
	②伊唐小学校教頭住宅犬走コンクリート補修	【実績値】 49件	【実績値】 52件	【実績値】 53件
	③獅子島教職員住宅屋根修繕	〈達成率〉 —	〈達成率〉 —	〈達成率〉 —
	④川床教職員住宅シロアリ駆除、修繕 ⑤その他 49件	【決算額】 2,296千円	【決算額】 7,884千円	【決算額】 3,218千円
3 令和3年度末における事業の成果・達成状況	有効性	A	居住環境が改善される。	
	必要性	A	住宅の老朽化等の改善を図る必要がある。	
	効率性	B	単年度予算で全事業の執行できない。	
	公平性	B	緊急性の高い住宅から整備する。	
4 課題等	老朽化した住宅の環境整備には財政的な負担が大きいが、計画的に居住環境の向上を図る必要がある。 入居が見込まれない空き家は町営住宅への所管替等も検討する必要がある。			
5 評価	達成度	方向性	評価理由	老朽化した教職員住宅が多く、維持管理に財政負担が大きい。
	B	A		
6 令和4年度予算額	7,872千円		令和4年度の取組み	・教職員住宅修繕 ・トイレ改修（温水便座へ更新） 等

令和3年度個別事務事業点検・評価シート

シート番号 3

事業名	長島町立小・中学校統合・再編推進事業	担当課	教育総務課	
1 事業の目的、概要等	<p>【事業の目的】 複式学級の解消を原則として、児童・生徒への教育的配慮を考慮した小・中学校の早期統合・再編を推進することを目的とする。</p>			
	<p>【事業の概要】 「長島町立学校等の規模・配置の在り方検討委員会」の答申に基づき、小中学校等統合・再編の推進を図るため「長島町立小中学校統廃合推進委員会」を設置し、本島地区は平成27年2月に中学校統合案を議会に上程したが再編に至らなかった。 獅子島地区は平成25年4月に施設一体型の小・中一貫校として開校。 本浦小は平成27年4月に鷹巣小と統合、田尻小は平成29年4月に川床小と、汐見小は平成30年4月に城川内小と統合した。平尾中と川床中の保護者が2校案について、独自のアンケート調査を実施したが、反対意見が多く同意を得ることが出来ず、現状維持となっている。</p>			
2 主な活動・成果指標	指標名	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	・定例教育委員会において、統合再編について協議	[目標値] —	[目標値] —	[目標値] —
	・長島町総合教育会議において統合・再編等について協議	[実績値] 延べ2回	[実績値] 延べ4回	[実績値] 延べ4回
	・町長部局が主催する小学校等の整備に関するプロジェクト会議において統合再編整備に関する協議	〈達成率〉 —	〈達成率〉 —	〈達成率〉 —
	・日置市及び薩摩川内市の義務教育学校を視察研修	【決算額】 —	【決算額】 —	【決算額】 —
3 令和3年度末における事業の成果・達成状況	有効性	A	統合再編を推進し教育的環境を整備する。	
	必要性	A	複式学級の解消を図り、教育効果の向上を図る。	
	効率性	B	世代間で温度差がある。	
	公平性	B	地域間で温度差がある。	
4 課題等	<p>複式学級の解消については、伊唐小学校において、地域、保護者の理解が得られていない。また、複式学級解消とあわせて小・中学校の統合再編のあり方についても検討しなければならない。</p> <p>本町の学校施設は昭和40年から昭和50年代にほとんどが整備されており、老朽化の進行は避けられない状況になっている。今後は、施設の更新や維持管理に係るトータルコストも考慮した長期的な視点で統合再編を推進することが必要である。</p>			
5 評価	達成度 C	方向性 B	評価理由	令和3年度は適正な学校規模や義務教育学校の在り方について調査検討を行い、統合再編に向け協議を重ねてきた。伊唐小学校の統合への同意や、他の小・中学校の統合・再編推進についても実績がないため、達成度・方向性共に不十分。
6 令和4年度予算額	—	令和4年度 取組	<ul style="list-style-type: none"> ・複式学級解消のための意見交換会の継続実施 ・統合再編について町長部局との協議 ・第2次長島町小中学校等統合再編基本計画の策定 	

令和3年度個別事務事業点検・評価シート

シート番号 4

事業名	小・中学校就学援助事業	担当課	教育総務課	
1 事業の目的、 概要等	【事業の目的】 学校教育法に基づき、就学が困難と認められる児童生徒の保護者に対して、必要な援助を行うことを目的とする。			
	【事業の概要】 (1) 準要保護児童生徒就学援助費補助金 学校教育法及び長島町児童生徒就学援助に関する規則に基づき、経済的理由により就学が困難と認められる児童生徒の保護者に対して、学用品・通学用品・校外活動費・修学旅行費・医療費等必要な援助を実施した。			
2 主な活動・成果指標	指標名	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	【準要保護児童生徒認定者数】 ① 小学校：108人 ② 中学校：65人 ③ 合計：173人	【目標値】 ー 【実績値】 141人 【達成率】 ー 【決算額】 4,078千円	【目標値】 ー 【実績値】 173人 【達成率】 ー 【決算額】 5,938千円	【目標値】 ー 【実績値】 173人 【達成率】 ー 【決算額】 6,654千円
3 令和3年度末 における事業 の成果・達成 状況	有効性	A	補助金を交付することで、保護者の経済的な負担軽減を図る。	
	必要性	A	就学困難な児童生徒の保護者にとって必要。	
	効率性	A	民生委員の意見聴取を廃止したことにより、申請業務がスムーズになった。	
	公平性	B	申請に基づく認定のため、援助を必要とする者の漏れが発生する恐れがある。	
4 課題等	全家庭に対し学校を通じて申請の案内を配布している。近年児童生徒の数減少傾向であるが、就学援助申請者は増加傾向にある。			
5 評価	達成度	方向性	評価理由	就学援助事業の実施により、学用品費等の未納も解消されている。
	A	A		
6 令和4年度 予算額	9,089千円	令和4 年度の 取組み	・準要保護就学援助費の支給	

令和3年度個別事務事業点検・評価シート

シート番号 5

事業名	長島町ぶり奨学金償還事業	担当課	教育総務課																								
1 事業の目的、 概要等	【事業の目的】 向学心に富み進学に意欲を有し、地域で育った人材が故郷に帰ってくることを支援するため、町内の金融機関から借りたぶり奨学ローンの返還金の補填を行うことで、保護者の負担軽減及び長島町の発展、活性化を図ることを目的とする。																										
	【事業の概要】 平成28年度から開始された事業で、令和3年度末現在の実績は下記のとおりです。 <table style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <tr> <td colspan="2">・ 申込実績</td> <td colspan="2">累計</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td></td> <td>高等学校</td> <td>177人</td> </tr> <tr> <td>高等学校</td> <td>31人</td> <td>大学・短大等</td> <td>69人</td> </tr> <tr> <td>大学・短大等</td> <td>14人</td> <td>専門学校</td> <td>34人</td> </tr> <tr> <td>専門学校</td> <td>11人</td> <td>計</td> <td>280人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>56人</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				・ 申込実績		累計		令和3年度		高等学校	177人	高等学校	31人	大学・短大等	69人	大学・短大等	14人	専門学校	34人	専門学校	11人	計	280人	計	56人	
・ 申込実績		累計																									
令和3年度		高等学校	177人																								
高等学校	31人	大学・短大等	69人																								
大学・短大等	14人	専門学校	34人																								
専門学校	11人	計	280人																								
計	56人																										
2 主な活動・成 果指標	指標名	令和元年度	令和2年度	令和3年度																							
	【H28年度から開始】 令和3年度償還補助金支給額 ・ 利息補填 2,269千円 181件 89人 ・ 元金補填 2,456千円 24件 22人 <hr style="width: 80%; margin-left: 0;"/> 4,725千円	[目標値] — [実績値] 64人 <達成率> — 【決算額】 1,378千円	[目標値] — [実績値] 72人 <達成率> — 【決算額】 2,361千円	[目標値] — [実績値] 89人 <達成率> — 【決算額】 4,725千円																							
3 令和3年度末 における事業 の成果・達成 状況	有効性	A	長島町ぶり奨学金償還事業の充実が図られた。																								
	必要性	A	保護者の負担軽減が図られた。																								
	効率性	A	償還補助金の申請業務を円滑に行ったほか補助金事務はシステムにおいて処理。																								
	公平性	A	中学校を通じて制度の周知を図っている。																								
4 課題等	ぶり奨学金の償還補助金制度については、町民の認知度も高くなっており、年々利用者も増加している。今後は、元金を償還する方が増加してくることから、補助金の申請漏れ等がないよう利用者へ周知する必要がある。																										
5 評価	達成度	方向性	評価理由	広報で申請手続きの周知を行い、償還補助金の支給について計画的に実施できた。また、長島町ぶり奨学金償還事業を利用された方が町内へ帰ってくる支援にもなっている。 システムを導入したことにより補助金事務を迅速かつ正確に行え、かつ申請者の負担軽減につながっている。																							
	A	A																									
6 令和4年度 予算額	8,445千円	令和4 年度 の 取 組 み	・ 広報で申請手続きの周知を図り、ぶり奨学金償還補助金支給を計画的に実施する。																								

令和3年度個別事務事業点検・評価シート

シート番号 6

事業名	離島高校生修学助成金	担当課	教育総務課	
1 事業の目的、 概要等	【事業の目的】 高等学校，国立高等専門学校に在学する長島町獅子島出身の生徒の下宿費・寮費・通学費等の負担軽減を図ることを目的とする。			
	【事業の概要】 (1) 助成の対象者は，長島町立獅子島中学校を卒業し，現に高等学校等に在学する者 (2) 助成金の交付対象者は，前号に定める者の保護者で，現に獅子島に居住し，住民登録を有する者 (3) 助成金の額は，1か月20,000円			
2 主な活動・成 果指標	指標名	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	【離島高校生修学助成金助成者数】 ①高等学校：11人	[目標値] 9人 [実績値] 9人 <達成率> 100% 【決算額】 2,160千円	[目標値] 9人 [実績値] 9人 <達成率> 100% 【決算額】 2,000千円	[目標値] 11人 [実績値] 11人 <達成率> 100% 【決算額】 2,640千円
3 令和3年度末 における事業 の成果・達成 状況	有効性	A	助成金を交付することで，生徒の下宿費・寮費・通学費等の負担軽減を図る	
	必要性	A	保護者の負担軽減が図られた。	
	効率性	A	中学校と連携を図り進学校を調査し，申請業務をスムーズに行った。	
	公平性	B	助成対象者が，獅子島中学校を卒業し，保護者が，獅子島に居住し住民登録を有する。	
4 課題等	助成金の交付対象者は，長島町立獅子島中学校を卒業し，高等学校又は国立高等専門学校に在学する生徒の保護者で，獅子島に居住し，住民登録を有する必要がある。			
5 評価	達成度	方向性	評価理由	高等学校等に在学する獅子島出身の生徒の下宿費・寮費・通学費等の負担軽減が図られた。
	A	A		
6 令和4年度 予算額	2,400千円		令和4 年度 の 取 組 み	・対象人員10人。獅子島出身の生徒の下宿費・寮費・通学費等の負担軽減を図る。

令和3年度個別事務事業点検・評価シート

シート番号

7

事業名	給食センター運営事業	担当課	教育総務課	
1 事業の目的、概要等	<p>【事業の目的】 心身の成長が著しい児童生徒に安心・安全な給食を安定的に提供し、適切な栄養の摂取による健康の保持増進を図り、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけさせる。</p>			
	<p>【事業の概要】 (1) 児童生徒の成長に応じ栄養バランスのとれた献立を計画的に作成する。 (2) 給食用物資(食材)は安全性、味、価格等を考慮し厳選した物を調理に使用する。 (3) 「学校給食衛生管理の基準」等により衛生管理の徹底を図り、食中毒は絶対に防止すると共に、委託業者も同様に衛生管理の徹底を義務付ける。 (4) 地元の農産物など地産地消による給食を推進する。 (5) 食数の連絡調整、給食費入金管理及び委託等契約事務を行う。 (6) 小・中学生の学校給食費補助を推進し、子育て世代の支援と定住促進を図る。</p>			
2 主な活動・成果指標	指標名	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	<p>【令和3年度給食数】 ①小学校 : 127, 120食 ②中学校 : 66, 528食 ③幼稚園 : 7, 511食 ④給食センター他 : 4, 194食 合計 : 205, 353食</p>	<p>[目標値] — [実績値] 190, 022食 〈達成率〉 — 【決算額】 46, 567千円</p>	<p>[目標値] — [実績値] 207, 816食 〈達成率〉 — 【決算額】 51, 239千円</p>	<p>[目標値] — [実績値] 205, 353食 〈達成率〉 — 【決算額】 51, 576千円</p>
3 令和3年度末における事業の成果・達成状況	有効性	A	適切な栄養の摂取によって、健康の保持増進が図られた。	
	必要性	A	適切な栄養の摂取により健康の増進を図り、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけさせられた。	
	効率性	A	給食の調理及び運搬業務の安定供給が図られた。	
	公平性	A	町内共同調理場での給食で充実が図られ、地場産物・食育指導・情報発信等統一がなされた。	
4 課題等	<p>調理室内の調理機具等不具合発生で、給食調理・運搬に支障がでることがないように日々の点検に努める。 食品の安全性を確保し、地場産物の活用など教育的配慮がなされた学校給食を作るため、調理で使用する物資等の再検討する必要がある。天候不良による野菜の高騰が続き、食材の調達に苦慮したが、地場産物を活用することで、経費の削減ができたので、地場産物を活用できる仕組みづくりも必要である。 異物混入を無くすために、徹底した調理場点検業務及び業者選定等が課題となる。</p>			
5 評価	達成度	方向性	評価理由	栄養管理や衛生安全管理等に配慮しながら、おいしく魅力ある学校給食を安全で安定的な提供による、適切な栄養の摂取により児童生徒の健康の保持増進が図られた。
	A	A		
6 令和4年度予算額	105, 209千円		令和4年度の取組	・学校給食費会計管理事務の徹底と、調理器具等の点検修理の徹底を図り、おいしく魅力ある学校給食の安心安全な供給を第一条件として企画・運営にあたる。

令和3年度個別事務事業点検・評価シート

シート番号 1

事業名	学力向上推進事業		担当課	学校教育課
1 事業の目的、概要等	【事業の目的】 一人一人の児童生徒の個性と能力を伸ばす学習指導の充実と基礎・基本の確かな定着を目指す分かる授業の推進を図る。			
	【事業の概要】 ①校内研修の充実 ②管理職研修会の充実 ③町教育研究会の充実 ④研究協力校等への指導助言 ⑤教育講演会・ICT活用研修会の実施 ⑥教職員の視察研修 ※感染症対策のため中止となった。			
2 主な活動・成果指標	指 標 名		令和元年度	令和2年度
	鹿児島学習定着度調査 小学5年生（4教科） 中学1・2年生（5教科）		[目標値] 県平均 [実績値] 小77 中62.7 〈達成率〉 小101% 中94% 【決算額】 1,200千円	[目標値] 県平均 [実績値] 小70 中69 〈達成率〉 小95% 中99% 【決算額】 416千円
3 令和3年度末における事業の成果・達成状況	有効性	A	研究公開、校内研修への指導助言、管理職研修会における時宜を得た指導が有効であった。	
	必要性	A	町内全学校の児童生徒の学力向上のために、今後も支援が必要である。	
	効率性	A	各学校の校内研修を充実させ、教職員一人一人の指導力の向上を図る必要がある。	
	公平性	A	指導主事については、全小中学校に計画的に派遣することができた。	
4 課題等	<p>中学校の教員による中学校3年実力テストの問題作成（国・社・数・理・英）を通して、教材研究力や問題作成力の向上を図ることができた。</p> <p>「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善が図られるよう校内研修等を通して、教員の指導力の充実を図る必要がある。</p> <p>児童生徒の学習意欲の向上や指導法方法の工夫改善の方策として、町ICT活用研修会を実施したことで、教員のICT活用力の向上が図られ、授業におけるICT（タブレット端末）の積極的な活用につながった。今後も、ICT（タブレット端末）の効果的な活用に向けて研修等を進めていく必要がある。</p>			
5 評価	達成度	方向性	評価理由	鹿児島学習定着度調査の結果を見ると、令和3年度は小学校は県平均を下回る結果となったが、中学校においては、県平均を上回るなど、学力向上対策の成果が見られる。
	B	A		
6 令和4年度予算額	1,104千円		令和4年度取り組み	継続事業として教職員の県外視察研修や中学校の実力問題作成等を通して、相互の研修を行い、指導力の向上に努める。

令和3年度個別事務事業点検・評価シート

シート番号 2

事業名	生徒指導推進事業	担当課	学校教育課	
1 事業の目的、概要等	【事業の目的】 不登校（傾向）児童生徒の状況を各校教職員が把握し、その解決に向けて一体となって取り組むとともに、関係機関との連携を密にし、その解決を図る。			
	【事業の概要】 ①各学校の生徒指導体制の充実 ②いじめ対策専門委員会の開催 ③いじめ問題を考える週間の充実 ④スクールソーシャルワーカーの派遣 ⑤スクールカウンセラー配置事業の活用			
2 主な活動・成果指標	指 標 名	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	不登校児童生徒数	[目標値] 0人	[目標値] 0人	[目標値] 0人
	スクールソーシャルワーカー 2,000円×264H（90回派遣）	[実績値] 3人 〈達成率〉	6人 〈達成率〉	10人 〈達成率〉
		【決算額】 (SSW) 543千円	【決算額】 (SSW) 623千円	【決算額】 (SSW) 662千円
3 令和3年度末における事業の成果・達成状況	有効性	A	令和3年度は、スクールソーシャルワーカーを5人配置し、学校や地域の実態に応じた指導を行っている。	
	必要性	A	不登校生徒数を0（ゼロ）にしていく取組を継続していく必要がある。	
	効率性	A	不登校児童生徒に対しては、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携が効果的である。	
	公平性	B	スクールカウンセラーは限られた回数ではあるが、学校の要請に応じることができるようにしている。	
4 課題等	不登校については、令和3年度に新規の不登校児童生徒が4人出ており、今後とも「0（ゼロ）」を目指して、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携を図って対策に取り組んでいく必要がある。 いじめについては、「どこの学校でも、どの子供にも起こり得る」「1件でも多く発見し、それらを解消する」という基本認識をもち、未然防止と早期発見・早期対応に全力で努める必要がある。			
5 評価	達成度	方向性	評価理由	各学校において不登校傾向の児童生徒が登校することができるように取り組んできた。併せて、学校家庭相談員やスクールカウンセラーによる相談体制も充実してきた。
	B	A		
6 令和4年度 予算額	662千円	令和4 年度の 取組	いじめ対策専門委員会の開催、スクールソーシャルワーカーの派遣	

令和3年度個別事務事業点検・評価シート

シート番号 3

事業名	特別支援教育推進事業	担当課	学校教育課
1 事業の目的、概要等	【事業の目的】 小学校及び中学校において支援が必要な児童生徒に対し、日常生活の支援を行ったり、学習活動上のサポートを行ったりすることで、個に応じた適切な教育を進める。		
	【事業の概要】 ①派遣校 学校の希望を基にして、必要度の高い学校から派遣 合計10人 【鷹巣小3.5人,川床小1人,平尾小0.5人,城川内小1人,蔵之元小1人】 【鷹巣中2人,長島中1人】 ②賃金 会計年度任用職員として、平均日額7,241円を支給 ③派遣日数 各学校に210日派遣（一部学校は兼務のため半分）		
2 主な活動・成果指標	指 標 名	令和元年度	令和2年度
	一人当たり派遣日数	【目標値】 210日 【実績値】 平均197日 〈達成率〉 93.8% 【決算額】 10,136千円	【目標値】 210日 【実績値】 平均209日 〈達成率〉 96.8% 【決算額】 12,261千円
3 令和3年度末における事業の成果・達成状況	有効性	A	担任だけでは十分な指導が行き届かない際に、きめ細かな支援ができる。
	必要性	A	学習支援等必要な児童への指導のために今後も継続した配置が必要である。
	効率性	A	支援員と連携を図りながら進められるので、児童への支援の充実が図られた。
	公平性	B	指導主事については、全小中学校に計画的に派遣することができた。
4 課題等	要望のあった全ての学校に対して、最大限配置を推進していく必要がある。		
5 評価	達成度	方向性	評価理由 要望する全ての学校に支援員は配置できていないが、実態を精査し予算の範囲内で最大限の配置をしている
	A	A	
6 令和4年度予算額	17,896千円	令和4年度 取組み	中学校への特別支援教育支援員の配置を行っている。対象者の多い学校への複数配置し、新規に1校、3日間1人配置した。

令和3年度個別事務事業点検・評価シート

シート番号 4

事業名	外国語指導助手設置事業	担当課	学校教育課	
1 事業の目的、概要等	【事業の目的】 児童生徒がコミュニケーション能力を高めることができるような英語授業を、教員及び外国語指導助手によるティームティーチングで行うことによって、英語での活発な会話等の機会が得られ、児童生徒の英語学習のやる気を高め、学力向上を図る。			
	【事業の概要】 ①教員と外国語指導助手との連携による授業づくり ②外国語指導助手ネイティブスピーカーとのコミュニケーションの機会を通しての言語活動能力の育成 ③国際理解教育における外国の文化や伝統、風習等に関する学習			
2 主な活動・成果指標	指 標 名	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	派遣回数（ALT 2名）	【目標値】 800時間 【実績値】 836時間 <達成率> 104.5% 【決算額】 10,464千円	【目標値】 800時間 【実績値】 873時間 <達成率> 109.1% 【決算額】 10,444千円	【目標値】 800時間 【実績値】 840時間 <達成率> 105.0% 【決算額】 10,560千円
3 令和3年度末における事業の成果・達成状況	有効性	A	英語学習に対する学習意欲が高まる。	
	必要性	A	英語圏の外国人の英語に直接触れることで、コミュニケーション能力の育成が図られる。	
	効率性	B	事前に指導案を提出し、打合せ等を行っている。（業務の効率化の検討必要）	
	公平性	A	中学校を中心に計画的に派遣することができた。	
4 課題等	効果的な派遣の在り方、授業の在り方を研究しながら、今後も継続していきたい。			
5 評価	達成度	方向性	評価理由	鹿兒島学習定着度調査の結果を見ると、令和3年度は小学校は県平均を下回る結果となったが、中学校においては、県平均を上回るなど、学力向上対策の成果が見られる。授業においてはネイティブによるコミュニケーション能力の育成は図られている。
	A	B		
6 令和4年度予算額	10,580千円	令和4年度 取組み	ALT, 学校, 教育委員会と連携を図り、外国語活動の更なる充実を図っていく。	

令和3年度個別事務事業点検・評価シート

シート番号 5

事業名	ふるさと教育推進事業	担当課	学校教育課	
1 事業の目的、概要等	【事業の目的】 郷土長島のよさに気付き、将来にわたって郷土をよりよくしようとする児童生徒を育成する。			
	【事業の概要】 ①長島検定の実施 ②長島町教育研究会の推進 ③ふるさとわくわく教育推進事業			
2 主な活動・成果指標	指 標 名	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	郷土資料配付 長島検定（小5～中3） 名人 14人 特級 9人 1級 19人 合計 42人	【目標値】 町内5年以上全児童 【実績値】 町内5年以上全児童生徒 〈達成率〉 【決算額】 620千円	【目標値】 町内5年以上全児童 【実績値】 町内5年以上全児童生徒 〈達成率〉 【決算額】 620千円	【目標値】 町内5年以上全児童 【実績値】 町内5年以上全児童生徒 〈達成率〉 【決算額】 735千円
3 令和3年度末における事業の成果・達成状況	有効性	A	郷土資料集を活用したり、長島検定を実施したりして、効果的に郷土教育がなされた。	
	必要性	A	ふるさと教育を推進することは重要であり、今後も継続して取り組む必要がある。	
	効率性	A	郷土資料で学習したことを長島検定で確かめることができる。	
	公平性	A	全小学5・6年、中学1から3年までの児童・生徒が長島検定を実施することができた。	
4 課題等	ふるさと教育を推進するため、ふるさと教材の活用を各学校で有効的に図ったり、長島検定においてよりよい問題づくりを進めたりしていく必要がある。			
5 評価	達成度	方向性	評価理由	郷土教育教育については、一定の評価ができているが、コロナ禍のなかで各校においては地域住民とのふれあいが制限があり、実体験が十分ではなかった。
	A	A		
6 令和4年度予算額	880千円	令和4年度 取組	長島検定の実施	

令和3年度個別事務事業点検・評価シート

シート番号 6

事業名	長島の子表彰事業	担当課	学校教育課	
1 事業の目的、概要等	【事業の目的】 長島町の児童生徒の優れた個性を発見し、これを表彰することによって、心身ともに健全な児童生徒を地域ぐるみで育む。			
	【事業の概要】 ①学校長及び地域住民の推薦により、長島町内の小中学生を表彰する。 (1)奉仕賞, (2)親切賞, (3)スポーツ賞, (4)学芸賞, (5)読書賞, (6)創造賞, (7)勤労賞, (8)友情賞, (9)特別賞, 前各号以外で表彰に値する者を表彰する。 ②中学生・高校生においては、特に顕著な実績のあった者を表彰する。 ③感染症対策を徹底しながら表彰式の実施した。 ※なお、感染症対策のため、昼食会を中止し、参加賞として図書券を配布した。			
2 主な活動・成果指標	指 標 名	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	表彰児童生徒数	[目標値] 125人 [実績値] 132人 〈達成率〉 105.6% 【決算額】 849千円	[目標値] 100人 [実績値] 100人 〈達成率〉 100.0% 【決算額】 420千円	[目標値] 98人 [実績値] 98人 〈達成率〉 100.0% 【決算額】 424千円
3 令和3年度末における事業の成果・達成状況	有効性	A	推薦により多くの人の前で、表彰されるので、本人の自信につながる。	
	必要性	A	様々な視点から子どもの良さを認め評価することは、教育的価値が非常に大きい。	
	効率性	A	学校や地域が、日頃から、意識的に子どもの行いに目を向ける必要がある。	
	公平性	A	小学6年生には全員を対象に趣旨に沿った表彰となっている	
4 課題等	感染症対策を十分に行いながら、町文化ホールに集合した形での表彰式を実施した。 地域の方々に、長島の子表彰の趣旨等について理解していただくよう更なる啓発を図っていく必要がある。			
5 評価	達成度	方向性	評価理由	各学校で一人一人の児童を多角的に評価し、全6年生児童を表彰することができた。さらに、活躍が顕著な中学生、高校生についても表彰することができた。
	A	A		
6 令和4年度予算額	450千円		令和4年度取組	今後も、各学校で児童を多角的に評価することができるようにする。

令和3年度個別事務事業点検・評価シート

シート番号 7

事業名	体力向上推進事業		担当課	学校教育課
1 事業の目的、概要等	【事業の目的】 心身共に健やかで、調和のとれた人間性豊かな児童生徒を育成するために、その基礎となる体力・運動能力の向上を図る。			
	【事業の概要】 ①教科体育の充実 ②体力運動能力調査の実施とその分析 ③小学校水泳記録会（通信大会）、陸上記録会の実施 ④中学校総合体育大会への援助 ⑤鹿児島チャレンジへの参加啓発			
2 主な活動・成果指標	指 標 名		令和元年度	令和2年度
	出水地区中学校総合体育大会において上位入賞し、県中学校総合体育大会への参加資格を得た部活動及び生徒数とする。		【目標値】 7部80人 【実績値】 8部67人 <達成率> 95.7% 【決算額】 656千円	県大会中止 【目標値】 6部39人 【実績値】 6部39人 <達成率> 100.0% 【決算額】 312千円
3 令和3年度末における事業の成果・達成状況	有効性	A	水泳記録会、陸上記録会に向けた取組により体力づくりへの意欲付けが図られる。	
	必要性	A	生涯にわたって運動に親しむ素地を養う。	
	効率性	A	記録会や各種大会を目標にした体力づくりができる。	
	公平性	B	体力アップチャレンジ鹿児島に全校実施し、指導主事による見届けを確実に実行し共通実践ができた。	
4 課題等	日頃の体力づくりと併せ教科体育の充実と指導力の向上を図る必要がある。			
5 評価	達成度	方向性	評価理由	小学校は、水泳記録会(通信大会)や陸上記録会に向けて体力向上に取り組んでいる。中学校の部活動では、各学校で計画的に活動している。
	B	A		
6 令和4年度予算額	400千円		令和4年度取組み	体力運動能力調査の結果を分析し、各学校の課題を明確にし、体力づくりに取り組んでいく必要がある。

令和3年度個別事務事業点検・評価シート

シート番号 1

事業名	生涯学習推進事業	担当課	社会教育課	
1 事業の目的、概要等	【事業の目的】 生涯学習の推進体制の整備・充実に努め、地域での生涯学習の推進を図ることを目的とする。 そのため、生涯学習講座、家庭教育支援事業、高齢者学級を開設する。			
	【事業の概要】 ①生涯学習講座は、原則として成人を対象に開設（17学級） 1回2時間、年間10回、参加者数10人以上とする。1講座あたり40,000円 ②家庭教育支援事業は、原則としてPTA全員を対象にして開設できる。（11学級） 1回2時間、年間5回以上とする。1講座あたり30,000円 ③高齢者学級は、各地域で開催する。（16学級） 1回2時間、年間10回以上とする。1講座あたり40,000円			
2 主な活動・成果指標	指標名	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	3つの事業の合計学級数	[目標値] 60学級 [実績値] 49学級 <達成率> 82% 【決算額】 1,820千円	[目標値] 60学級 [実績値] 46学級 <達成率> 77% 【決算額】 1,700千円	[目標値] 55学級 [実績値] 44学級 <達成率> 80% 【決算額】 1,650千円
3 令和3年度末における事業の成果・達成状況	有効性	A	生涯学習、高齢者学級を地域で、家庭教育学級を全ての小・中学校で開設できている。	
	必要性	A	各年代・課題に応じた学習と、本町は分散型居住のため全域での開催が必要である。	
	効率性	B	自主講座にしたいが、講師謝金等が高いため、完全な自主学級になれないところが多い。	
	公平性	B	各講座に一律補助のため負担の差があるが、助成額に差をつけるのも困難である。	
4 課題等	生涯学習においては、他の市町村においても自主講座にしたいが自主学級に切り替えると消滅するケースが多い。講座の運営状況や運営費を見て対応しているところである。令和4年度は、短期講座を開催し、新たな学級の育成を図っていきたい。 家庭教育支援事業は、一定の学級生を対象にした家庭教育学級の運営が困難であったため、運営方法を改革し、幼稚園と小学校を合同実施しているところもある。 高齢者学級においては、集落内に役員のみならず、生涯現役との認識から、高齢者（老人）という言葉への抵抗があり開設に至っていない集落がある。			
5 評価	達成度	方向性	評価理由	コロナ禍の中、開催が困難な状況であるが、生涯学習講座や高齢者学級等の開設など多くの町民に取組んでほしいものである。
	C	B		
6 令和4年度予算額	2,010千円	令和4年度	生涯学習講座、家庭教育支援事業、高齢者学級で45学級を目標に開設する。町民の学習機会拡充のため短期講座5講座開設。	

令和3年度個別事務事業点検・評価シート

シート番号 2

事業名	図書館事業	担当課	社会教育課	
1 事業の目的、概要等	【事業の目的】 図書館の充実を図るため、読書推進計画を策定し、読書人口の拡大と本に親しむ気風づくりに努めることを目的とする。特に、図書館の本を気軽に手に取ってもらうために事業所や施設等8ヶ所に団体貸出をし、月1回入替を行い利用推進している。			
	【事業の概要】 ①鷹巣図書館、指江図書館の開館（月曜日午後～日曜日開館・月曜日午前と国民の祝日休館） ②図書館だよりの発行により新刊の情報を発信している。 ③小学校入学児童に二冊づつ本を贈呈し、本に親しみを持ってもらおう。（ランドセルブック）			
2 主な活動・成果指標	指標名	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	図書館の貸し出し冊数	[目標値] 10,000冊 [実績値] 9,694冊 <達成率> 97% 【決算額】 7,309千円	[目標値] 10,000冊 [実績値] 8,480冊 <達成率> 85% 【決算額】 9,139千円	[目標値] 10,000冊 [実績値] 5,614冊 <達成率> 56% 【決算額】 63,215千円
3 令和3年度末における事業の成果・達成状況	有効性	A	読書推進計画を策定するとともに町民から要望のあった月曜日の午後も開館し、読書活動を推進した。	
	必要性	A	図書館活動は住民の読書活動を推進する上でなくてはならない活動である。	
	効率性	C	図書館に遠い地域住民が多く存在し、特に交通弱者は利用が困難で効率が悪い。	
	公平性	C	図書館が遠く利用が困難な地域が多い。	
4 課題等	図書館の利用は長期休業中の子どもたちが中心で、大人の利用は少ない状況であり、仕事が終わったあと利用できる開館時間の設定と併せて職員の勤務形態について検討する必要がある。 図書館の規模からみても、調べ物ができる図書館は困難で、読書活動を推進する図書館を目指している。 図書館から遠隔地の集落が多く、交通手段の無い子どもたちは親の助けが無いと利用が厳しい。			
5 評価	達成度	方向性	評価理由	図書館移設のため昨年度より会館期間が3ヶ月から4ヶ月短くなったことから利用者数の減少につながった。
	C	B		
6 令和4年度 予算額	10,734千円		令和4年度 取組み	鷹巣、指江の新図書館がリニューアルしたので、利用増進に取り組んでいきたい。

令和3年度個別事務事業点検・評価シート

シート番号 3

事業名	文化財保護事業	担当課	社会教育課	
1 事業の目的、 概要等	【事業の目的】 ふるさとの貴重な文化財を保護し後世に残すとともに、文化財の維持管理や歴史民俗資料館の管理運営を行い、文化財の愛護思想の高揚に努める。 特に、文化財の説明看板や標識の整備を進める。			
	【事業の概要】 ①文化財説明板の設置（温之浦古墳群，浜漣横穴墓，案内看板） ②文化財標識の設置 ③文化財の定期的な整備及び修復 ④歴史民俗資料館の有効活用			
2 主な活動・成 果指標	指標名	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	文化財説明板整備数及び補修箇所	[目標値] 5か所 [実績値] 3か所 <達成率> 60% 【決算額】 4,964千円	[目標値] 5か所 [実績値] 3か所 <達成率> 60% 【決算額】 3,928千円	[目標値] 5か所 [実績値] 6か所 <達成率> 120% 【決算額】 1,840千円
3 令和3年度末 における事業 の成果・達成 状況	有効性	A	史跡等文化財の保護を充実させることが、愛護思想の普及啓発に有効である。	
	必要性	A	後世に価値ある文化財を残し伝えるため補修等は必要である。	
	効率性	C	学芸員等専門知識を有する職員が不在のため、担当職員のスキルアップが必要である。	
	公平性	B	記述に間違いがある物や古い物から順次整備している。	
4 課題等	看板は、近年耐久性に優れ、写真等も入ったきれいなものが安価で建設できるようになったため各文化財の看板は計画的に整備できた。クビナガリュウ化石に続き翼竜化石、ボンベドが相次いで発見されたことから、発掘調査を計画する必要がある。 併せて古墳等の除草や雑木の伐採を行い、管理整備を実施し、観光に活かせるように、歴史と文化の町長島町をアピールして行きたい。			
5 評価	達成度	方向性	評価理由	長島の歴史や民俗、風土などを多面的に紹介するための長島町文化財紹介パンフレットの見直しを行った。また、古墳等の指定文化財の案内看板の修繕も定期的に行った。
	B	A		
6 令和4年度 予算額	2,378千円		令和4 年度 取組	古墳等の指定文化財の案内看板の老朽化しているものが多く、修繕及び新設を行っていきたい。

令和3年度個別事務事業点検・評価シート

シート番号

4

事業名	芸術文化振興事業		担当課	社会教育課	
1 事業の目的、概要等	【事業の目的】 自主文化事業による優れた舞台芸術の鑑賞機会を提供するとともに、町民の生涯学習の発表の場を提供し、芸術文化の振興を図りながら町民の楽しみと豊かな情操を育み、潤いのある生き生きとした町づくりを推進する。 この目的を達成するため文化ホールを管理運営し、利用の促進を図る。				
	【事業の概要】 ①子ども芸術劇場 中止 ②劇団四季ミュージカル（はじまりの樹の神話） 中止 ③長島町総合文化祭 中止 ④バイオリン教室を町内4小中学校で開催 ⑤C&Kコンサート 開催 ※文化ホールは、芸術文化事業に止まらず、貸し館など幅広い住民のための利活用を図る。				
2 主な活動・成果指標	指標名		令和元年度	令和2年度	令和3年度
	文化ホールの利用者数		[目標値] 15,000人 [実績値] 20,968人 <達成率> 139% 【決算額】 12,967千円	[目標値] 15,000人 [実績値] 4,588人 <達成率> 31% 【決算額】 12,661千円	[目標値] 15,000人 [実績値] 10,485人 <達成率> 70% 【決算額】 20,705千円
3 令和3年度末における事業の成果・達成状況	有効性	A	コロナ禍の影響で各種事業が中止となったが、心豊かな町民育成のため有効である。		
	必要性	A	町民に芸術・文化作品に触れる機会の提供を行うため自主文化事業は必要である。		
	効率性	C	2年続けて事業を実施していないため、音響、照明等操作する職員の経験不足が懸念される。		
	公平性	C	獅子島地区にはチャーター船や送迎バスを配置し公平性の確保に努めていたが、コロナ禍により事業中止となった。		
4 課題等	子ども芸術劇場や町文化祭、劇団四季ファミリーミュージカルはコロナ禍の影響で中止となった。しかし、C&Kコンサートは感染対策を行いながら実施できた。町内・県内の感染状況等を考慮しながら、各種事業を実施できるように感染対策等検討する必要がある。また、運営する職員の経験不足を解消するため、研修会等への参加を検討したい。				
5 評価	達成度	方向性	評価理由	子ども芸術劇場と劇団四季公演は中止となったが、C&Kコンサートは開催できた。開催時期の感染状況等により実施するか中止するかの判断を下すことがとても困難であった。	
	C	B			
6 令和4年度 予算額	16,711千円		令和4年度 取組み	コロナウイルス感染防止対策を講じながら、可能な範囲で、安心安全なイベントを実施していきたい。	

令和3年度個別事務事業点検・評価シート

シート番号

5

事業名	社会体育振興事業		担当課	社会教育課	
1 事業の目的、概要等	【事業の目的】 町民総ぐるみの健康づくり，体力づくりを促進するため各種スポーツ大会の開催，社会体育指導者の育成及び社会体育団体の活動の充実を図る。 特にトライジョギング大会，すいせんウォークの二大町づくりイベントの発展を図る。				
	【社会体育事業の概要】 ①学校体育施設開放事業の実施，学校プール開放事業の実施 ②各種スポーツ大会の開催 ③体育協会活動補助事業 ④各種会合・研修会 【トライジョギング大会，すいせんウォークの基本方針】 この大会は，町づくりイベントとして町外に広くアピールする大会とする。				
2 主な活動・成果指標	指標名		令和元年度	令和2年度	令和3年度
	トライジョギング大会，すいせんウォークの合計参加者数		[目標値] 2,000人 [実績値] 2,326人 <達成率> 116% 【決算額】 7,129千円	[目標値] 2,000人 [実績値] 0人 <達成率> 0% 【決算額】 0千円	[目標値] 2,000人 [実績値] 0人 <達成率> 0% 【決算額】 0千円
3 令和3年度末における事業の成果・達成状況	有効性	A	長島の特産品、景観、おもてなしの心で多くの人に魅力を周知できる機会として有効である。		
	必要性	A	町外から大勢の参加者が参加できる交流型の地域おこしイベントとして必要である。		
	効率性	A	実行委員会を組織し、効率的な運営を行っている。トライジョギング大会は、エントリー管理・記録計測・HP管理を委託し効率化を図っている。		
	公平性	A	町内・町外の参加申込みの公平性はもとより、参加費に対する特産品も相応の価格に設定する等、公平性に配慮している。		
4 課題等	昨年度に引き続きトライジョギング大会・すいせんウォークともに中止となった。 新型コロナウイルス感染症の終息はまだ見えないが，他の自治体では，マラソン大会等スポーツイベントを実施しているところもあり，本町としては，今後の感染状況に応じた感染防止対策を講じながら全てのイベントが開催できるよう取り組みたい。				
5 評価	達成度	方向性	評価理由	この大会は，町民の体力向上や健康増進はもとより，交流人口の増加等で地域活性化を図るイベントであるが，2年連続して実施することができなかったため。	
	C	A			
6 令和4年度 予算額	7,702千円		令和4年度の 取組み	感染防止対策を行った上で可能な限り実施できるよう取り組んでいく。	

令和3年度個別事務事業点検・評価シート

シート番号

6

事業名	体育施設管理事業	担当課	社会教育課	
1 事業の目的、概要等	【事業の目的】 町民総ぐるみのスポーツレクリエーションの振興を図り、町民の健康増進・精神の練磨の場として施設の維持管理を行い、利用の促進を図る。			
	【事業の概要】 ①体育館管理（総合町民体育館，多目的ホール，弓道場，B & G 体育館・武道館） ②運動場管理（川床コミュニティ運動場，城川内運動場，多目的運動広場） ③プール管理（町民プール，B & G プール） ④海洋センター艇庫 上記施設の適正な管理・運営を行う。			
2 主な活動・成果指標	指標名	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	体育施設の利用者数 (学校体育施設開放も含む)	[目標値] 110,000人 [実績値] 159,660人 〈達成率〉 148% 【決算額】 157,927千円	[目標値] 110,000人 [実績値] 59,243人 〈達成率〉 54% 【決算額】 156,264千円	[目標値] 110,000人 [実績値] 68,517人 〈達成率〉 62% 【決算額】 219,055千円
3 令和3年度末における事業の成果・達成状況	有効性	A	運動場，体育館，プールなど有効に利用されている。	
	必要性	A	体育施設は，スポーツや交流活動を行う上で不可欠である。	
	効率性	B	施設が分散しており，効率的管理が難しいが，利用者には喜ばれている。	
	公平性	A	人口規模的には十分な施設がある。	
4 課題等	<p>本年度も感染状況に応じて，施設の休館や利用制限等を行った。今後も感染状況に応じた対応が必要である。</p> <p>プールは，水温の上昇による藻の発生を抑えるため，こまめな水質管理が必要となる。</p> <p>運動場は，雑草の伸びが早く除草作業に大変苦慮している。また，降雨によってグラウンド内の表土流失が度々起こるため，改善方法を検討したい。</p> <p>総合運動公園整備事業は，コロナ禍やロシアの軍事侵攻等で世界的に景気動向が不透明な状況であり，人件費・物件費の高騰や原材料確保の困難な状況等想定され，臨機応変に進めたい。</p> <p>大会等への参加者の減少や競技団体の活動におけるモチベーションの低下など危惧する声が上がっており今後のスポーツ人口減少につながらないような取り組みが必要となる。</p>			
5 評価	達成度	方向性	評価理由	コロナ禍の影響により，施設の休館や利用制限等を行った。 スポーツ少年団や毎週活動している団体では，参加者の減少やモチベーションの低下等危惧する声が上がっている。
	C	A		
6 令和4年度 予算額	139,577千円		令和4年度 取組み	B & G 艇庫の浮棧橋の整備，総合運動公園整備は，グラウンドの造成を完了し，管理棟の設計委託等発注予定。

1 教育委員会委員の活動状況等

(1) 委員選任状況

R4.3.31 現在

職名	氏名	在任期間	委員就任年月日
教育長	大浦慶子	R3.7.6 ～ R6.7.5	H30.7.6 2期目
委員 職務代理者	山下清通	H30.5.11 ～ R4.5.10	H26.5.11 2期目
委員	久保祐紀	R3.5.11 ～ R7.5.10	H18.5.11 4期目
委員	兒島宏允	R1.5.11 ～ R5.5.10	H21.6.22 3期目
委員	山内達也	R2.6.17 ～ R6.6.16	R3.6.17 1期目

※ 教育委員の任期は4年

(2) 会議の開催状況（R3年度実績）

定例会	12回（毎月1回）
臨時会	1回

(3) 審議状況

ア 付議件数

議案	36件
----	-----

イ 会議に付された主な案件

- ① 教育行政に関する基本的な方針を定める件
- ② 教育委員会規則の制定又は改廃の件
- ③ 町議会へ提出する条例改正及び予算案等についての意見聴取に関する件
- ④ 審議会委員の委嘱に関する件
- ⑤ 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価に関する件
- ⑥ 学校教職員人事異動内申の件

(4) 学校訪問

教育現場の状況を教育委員が直接見聞する機会として、学校訪問を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大により、中止を余儀なくされた。

学校訪問は中止となったが、令和2年度に整備した1人1台タブレット端末を活用している授業参観を、川床小・中学校及び平尾小・中学校で実施した。

※ 授業の参観のほかタブレット端末の活用方法の説明を受けるなど、校長、教頭との意見交換を行った。

長島町教育委員会外部評価委員会設置要綱

(設置)

第1条 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第26条第2項の規定に基づき、教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を行うに当たって、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るため、長島町教育委員会外部評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事務を行う。

- (1) 長島町教育委員会（以下「教育委員会」という。）の事務の点検結果の評価に関すること。
- (2) 教育委員会委員の活動状況の点検結果の評価に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、委員5人以内で組織する。

- 2 委員は、教育に関し学識経験を有する者のうちから教育委員会が委嘱する。

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

- 2 委員は、再任することができる。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

- 2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 3 委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議（以下「会議」という。）は、委員長が招集する。

- 2 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。
- 3 委員長は、会議の議長となり議事を整理する。
- 4 会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、教育委員会総務課において処理する。

(その他)

第8条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この告示は、平成21年6月25日から施行する。

(任期の特例)

2 この告示の施行後最初に委嘱される委員の任期は、第4条第1項の規定にかかわらず、平成22年3月31日までとする。

附 則 (平成23年3月27日教委告示第1号)

この告示は、平成24年4月1日から施行する。